



岡山畜産便り1962.05

(2) 見通し

- (ア) 上期の県下の生乳の生産は、増加率のややにぶった地域もみられるが、引続き搾乳牛が増加するものと考えられ、生乳価格の値上り見込みもあり、前年の伸び率よりいくらか下回るにしても大巾な生産増加が考えられる。
- (イ) 上期の牛乳の飲用および加工用向けの生乳の需要は、所得の伸びが前年にくらべやや鈍化することはあっても、牛乳の消費時期でもあり、都市での牛乳、乳製品の消費増加傾向から前年同期を多少上回る需要が見込まれる。
- (ウ) 上期の生乳の農村価格（岡山県平均）は、生乳の需要増加に加えて小売価格の値上げにともなう乳価改訂の行なわれることが考えられるので、前年同期の31円2銭（1kg当り農家手取）よりかなり高いものと見込まれる。

鶏卵

(1) 経過

- (ア) 35年度に100億個の大台を突破した全国の鶏卵生産は36年（4～12月）も前年同期を36%上回る99億8,000万個を記録し、鶏飼養羽数も37年には759万羽に達し各地域で著しい伸びをみせている。
- (イ) 県内の鶏飼養羽数は37年2月に総羽数357万羽（成鶏297万羽）と前年同期を42%上回った。36年中のひなの生産羽数は全国的に前年を大巾に上回ったが、ひな生産県としての本県も前年を約20%上回る770万羽（鑑別めす）の生産を上げ、とくに秋びなの伸びが大きかった。
- (ウ) 36年4～12月の全国の家庭用、業務加工向けの消費は、前年同期を37%上回る51万5,000トンとみられ、マヨネーズ向けは67%増しの6,900トンであった。36年4～12月の輸出も香港市場での伸びもあって、前年同期を16%上回った。
- (エ) 36年度下期の農村価格（岡山県平均）は全国的な著しい生産増にもかかわらず、期間平均182円（1kg当り）で、安かった前年同期により4%程度の高値であった。この内容をみると36年9～12月までは前年を上回り順調な推移をみせた

が、37年1月には消費の不振から前年同月を3%下回る155円と急落した。しかしその後輸出や大口需要に支えられ、2月からもち直し、3月には前年同月の11%高の164円となった。

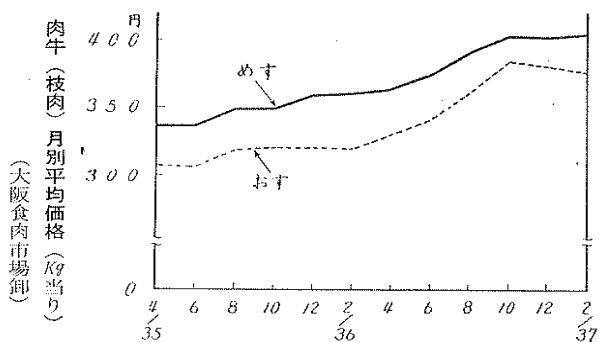
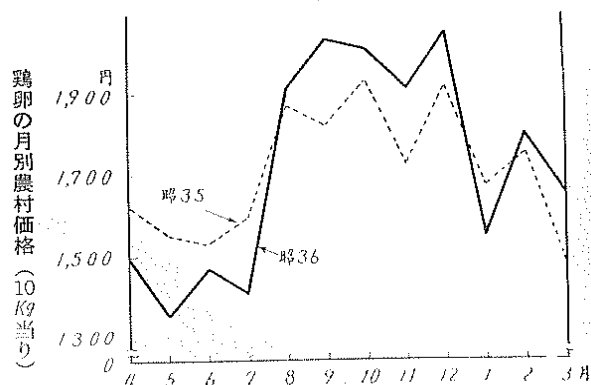
(2) 見通し

- (ア) 37年春びなの生産は前年よりやや減少するものと見られるが、36年秋びなの増加から、上期の成鶏めす羽数は、前年同期をかなり上回るものと考えられる。したがって上期の鶏卵の生産はなお前年同期よりかなりの増加がみこまれる。
- (イ) 上期の鶏卵の需要は引続き家庭用、マヨネーズ向けにかなりの増加が期待される。また輸出も昨年同期程度のものが見込まれる。
- (ウ) 上期の鶏卵の農村価格（岡山県平均）は、安かった昨年同期の平均161円（1kg当り）程度かやや高いものとみこまれる。

肉牛

(1) 経過

- (ア) 役肉用牛の飼養は36年度は前年度に続き全国的に減少もしくは停滞傾向をみせているが、36年4月～12月のと殺頭数は前年より3%増加した42万3,000トン（全国）であった。乳用牛の



## 岡山畜産便り1962.05

と殺は乳価の好調から 36 年 4～12 月の合計では前年同期より 15%少ない 7 万 9,000 頭であった。

(イ) 岡山県内和牛飼育頭数は 36 年 2 月現在 9 万 4,000 頭であったが、和牛価格の好調から 37 年 2 月にはわずかに増勢をみせた模様である。

県内の 和牛の肉用と殺は 36 年 10,486 頭で、前年にくらべ 4.4%減であった。これは豚のと殺が前年比 141%と大巾に伸びているのと合わせ牛肉需要が一部豚肉に移ったためと考えられる。

(ウ) 和牛の 36 年中の県外移出は 23,600 頭で前年にくらべ 8.8% (1,900 頭) 増しであった。

(エ) 36 年 4～12 月の全国の牛枝肉の生産は前年同期程度の 10 万 8,900 トンにとどまった。しかし牛肉に対する需要増から同期間に 3,860 トン (前年同期の 20%減) の枝肉が輸入された。なお大阪食肉市場での 36 年度 (4～12 月) と殺頭数は 42,700 頭であったが、これは前年同期より 8.6%の増加で、食肉需要が逐増しているあらわれとみられる。

(オ) 36 年度下期の県内農村肉牛価格 (めす、ぬき、おす平均生体 1 kg 当り) は 240 円で、前年同期 (197 円) にくらべると 22%の高値であった。これは家庭用業務用等の需要がひきつづきかなり高かったこと。全般的な和牛価格の高値から繁殖用としての需要からと殺肉用向が減少したことなどによるものと考えられる。

### (2) 見通し

(ア) 上期の役肉牛のと殺は、和牛飼養が停滞的であること、乳用牛のと殺も生乳価格の傾向から増加しないものと考えられるので、全国的な上期の牛枝肉の生産は前年同期程度か、あるいはわずかに少ないものと見込まれる。

(イ) 上期の牛肉の需要は、不需要期でもあり、豚肉にくらべて割高であることもあって、前年同期の動向よりやや鈍化するものと考えられる。

(ウ) 岡山市の県営食肉市場が 7 月から開場されるので、今後食肉の市場価格が肉牛価格にかなり敏感に影響を与えるようになるものと考えられる。

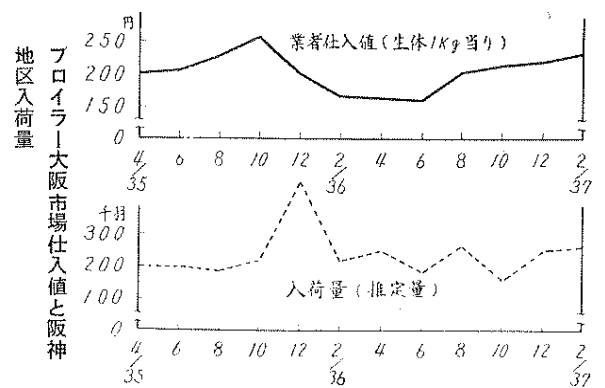
(エ) 上期の肉牛の農村価格 (岡山県平均) は、豚肉価格の安値を考慮に入れると本年 3 月の価格

243 円 (めす、ぬき、おす平均生体 1 kg 当り) 程度で推移するとみられ、前年同期 (36 年 4～9 月—211 円) よりかなり高いものとみこまれる。

## ブロイラー

### (1) 経過

(ア) 生産の急増で 36 年 2 月から大きく下げたブロイラー価格は、36 年 5 月には 147 円 (大阪、業者仕入値 1 kg 当り) と、34 年春以来の安値となったが、36 年度下期に入り立直りをみせ、37 年 1 月には 249 円、2 月 232 円で、下期平均では 229 円と前年同期 (197 円) にくらべ 16%高であった。



### (2) 見通し

(ア) 上期のブロイラー生産は、価格のちなおしからかなりの生産はあろうが、昨年同期の安値によって打撃を受けた影響もあって、前年同期にくらべかなり減少するのではないかと見込まれる。

(イ) 需要は豚肉価格や季節的な消費の波があってもほぼ順調に伸びるものと考えられる。

(ウ) このようなみとおしから、上期のブロイラー価格 (岡山県平均) は、前半の不需要期には多少の値下がりはあるにしても、上期全体としては前年同期を大巾に上回りかなり堅調に推移するものと考えられる。

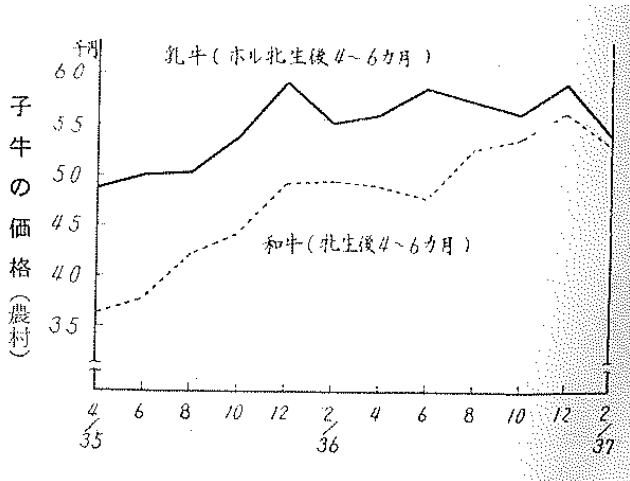
## 子牛

[乳牛]

### (1) 経過

乳牛子牛の農村価格は 35 年度下期以降値上がりし、36 年 6 月には前年同月を 17.5%を上回る 5 万 8,750 円 (ホルスタイン、めす、4～6 ヶ月 1 頭) となり、

## 岡山畜産便り1962.05



以後も36年末までは横ばいを続けたが、37年に入り、県内での子牛の生産増加と時期的に端境期に入ったため、53,750円と若干値下がりを見た。

### (2) 見通し

生乳価格の値上り傾向から子牛の導入意欲は依然として強いものとみられるので、上期の農村価格(岡山県平均)は37年1~3月平均の53,750円(ホルスタイン、めす、4~6ヵ月)より高く、引続き堅調とみられる。

[和牛]

### (1) 経 過

35年上期から一段と値上がりを示した和牛子牛の農村価格は36年度上期(岡山県平均)で50,396円(めす、生後4~6ヵ月1頭)(前年同期比127%)、同じく36年度下期53,575円(前年同期比111%)と高水準を続けたが、36年12月および37年1月の56,625円を最高に37年2月以降下向きに転じ、3月には46,325円と前年同月(48,750円)より5%の値下がりとなった。これは豚肉の安値に影響されて肥育牛の価格が伸びず子牛価格が割高となったこと。37年に入り妊娠牛の県外需要が減ったことなどによるものと考えられる。

### (2) 見通し

肉牛価格に高値が期待できないことや、時期的に需要面もあまり伸びないとみられるので、上期の子牛(和牛)の農村価格(岡山県平均)は37年3月の価格46,325円(めす、4~6ヵ月1頭)程度で横ばいするものとみこまれる。

[豚]

### (1) 経 過

子豚の農村価格(岡山県平均農家購入価格)はほ

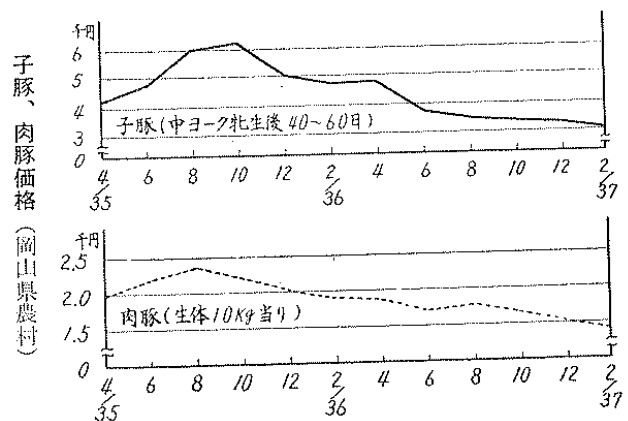
ぼ肉豚価格に平行して上下し、35年9月には最高の6,550円(中ヨーク、めす、40~60日)を記録した。36年に入り漸次値下がりし、36年度下期には前年同期の41%安の3,104円となった。

### (2) 見通し

(ア) 上期の県下の小豚生産は、37年2月現在の子取用めす豚飼育頭数の増加(36年5月対比60%増)から、ここしばらくはかなりの生産が行なわれるものと見込まれる。

(イ) 全国的な子豚生産は、豚枝肉の価格支持によって生産意欲が多少回復するとみられるが、前年同期にくらべかなり少ないものと見込まれる。

(ウ) 上期の子豚の農村価格(岡山県平均)は現在の安値(3,000円、中ヨーク生後40~60日1頭、農家購入価格)から回復傾向をするものと考えられる。



# お知らせ

## もれなく受けてください 家畜商講習会

さき頃の家畜商法の全面改正によって、家畜商の営業には新しい知事の免許を受けた者でなければ家畜取引の事業ができないことになりました。

また免許を受けようとする人は、県知事の開催する家畜商講習会を受講し、その課程を修了しなければ免許が受けられないことになっています。

受講の対象としてさしあたり考えられるのは、従来から家畜商を営んでいる人、生体取引をする食肉業者または食肉加工業者の方などです。

講習会はつぎのような計画で開催されます。

### 1、開催日時および場所

開催日	開催場所
第一日 三・五・二八 三〇	和気郡熊山町 中央公民館
第二日 三・五・二九 三一	笠岡市 北川小学校
三・五・二八 三〇	倉敷市新川町 新溪園
三・五・二八 三〇	英田郡美作町湯郷 林野高校湯郷校舎跡
三・五・二八 三〇	高梁市松山 高梁家畜市場
三・五・二八 三〇	岡山市 三門小学校
三・五・二八 三〇	真庭郡久世町 久世家畜市場
三・五・二八 三〇	新見市高尾 新見家畜市場
三・五・二八 三〇	津山市山下 鶴山館

### 別記様式

### 家畜商講習会受講申請書

岡山県知事  
証紙  
500円

年 月 日  
本籍地 県 郡市 町村 番地  
現住所 県 郡市 町村 番地  
氏名

家畜商法(昭和24年法律第208号)第4条の2, 第1項の規定により、開催される家畜商講習会を受講したいので申請する。

- 記
- 1 受講しようとする場所  
県 郡市 町村
  - 2 旧法による家畜商免許証の有無  
有 (登録年月日 年 月 日)  
登録番号  
無

### 2、受講手続

受講希望者は、別記様式の受講申請書に岡山県証紙500円をてん付して、講習会の開催される10日前までに、受講しようとする場所を所管している農林事務所を経由して知事に提出することになっています。

なお共同購入、共同販売を行なう農協もしくは農協連合会が家畜の取引をする場合には、免許を受ける必要はないことになっていますが、取引業務を行なう職員の方はつとめて受講してください。